

南洋資料第二八〇號
昭和十八年八月

熱帶と神經衰弱及精神病

中 脩 三

財團法人 南洋經濟研究所

はしがき

本資料は月刊南洋經濟研究原稿として執筆されたものであるが、同誌々面の都合に依つて直接南洋資料として刊行する。執筆者は臺北帝國大學教授。

昭和十八年七月三十日

財団法人 南洋經濟研究所

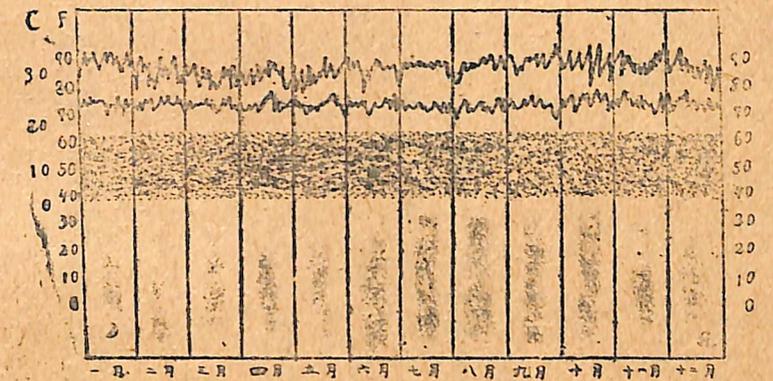
熱帯と神經衰弱及精神病

中 脩 三

一、氣候と精神機能

米國のハンチントンは出來高拂ひの勞働者の稼ぎ高を氣候や季節に關連させて統計的に研究し、稼ぎ高の最も少ないのは嚴冬と酷暑の候であると結論し、特に精神的機能は外氣が冷たい程よいと言ひ、地理學上より見るも熱帯に文化なしと斷じ、昔榮えた熱帯文化はどうだと尋ねると、其の頃は氣候は涼しかったのであると大膽に答へてゐる。生物が高等になればなる程冷たい所でも生存出來ると言ふ生物學上の概括的法則を直ちに人間の心理に持つて來るのはどうであらう。ハンチントンの成績を見ても、稼ぎ高は嚴冬が最も少いし、今日迄の實驗的研究では寧ろ肉體的の勞働の方が氣溫の低い程よいと言ふことになつてゐる。最適溫度が華氏三八度から六四度（攝氏三・三三—一・七八度）と言ふのも、日本の學者は皆低過ぎると言つてゐる。（第一圖參照）即ち西洋人の考へ方は相當割引して考へる必要がある。何故なれば西洋人は寒帯にはあるが日

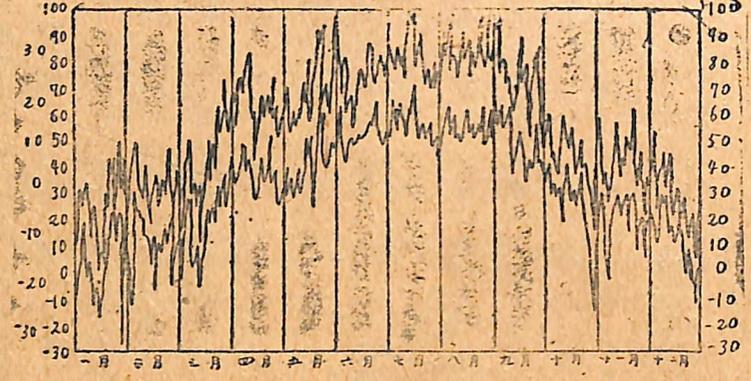
第 1 圖 毎日最高最低気温表 ブラジル、マナオス 1914



熱帯と神経衰弱及精神病

本人よりも餘程温かい生活をしてゐるからである。ヨーロッパでは暖房無しには生活出来ないが、暖房設備さへあれば真冬でも婦人連中は裸同様で生活してゐる。その西洋人が寒帯に文化興り、熱帯に文化なしと言ふのは、ちと片腹痛いと思ふ。日本内地程刺戟的な荒い氣候はない。さうして文明人の内で日本人程自然の氣候に曝されてゐる國民も他にはないであらう。内地では五、六月頃になるとどの御婦人も皆お腹が大きい様な氣がするのも日本人の出産に氣候が重大な影響を及ぼす證據で、西洋人にはかゝる自然現象が少ない。不自然の人工的暖房生活をしてゐるからである。日本人の妊娠月がかくも一致してゐることに對してミルス氏は説明不可能と言つてゐるが、西洋人は冬と言つても寒氣に曝されてはゐないが日本人の冬は名實共に寒いので春になると若芽と共に妊娠する。西洋人は之を野蕃と言ふかも知れない。啞！ 肉體は自然的生活に適應し得る程健康なのであり、肉體と情操は自然人に近い程高等である。實に日本人は自然の大氣の内に住

第 2 圖 毎日最高最低気温表 ビスマルク 1925



熱帯と神経衰弱及精神病

み得る唯一の文明國民であると言へやう。總ての議論は此東西文明の差から話が進められなければならない。西洋人の墓場と稱せらるる熱帯も氣候的鍛練を経てゐる日本人に取つては決してそうではない。大東亞戦争の赫々たる戦果の原因はもとより忠勇無双の皇軍の精神力によること勿論であるが、白人と日本人の氣候的練磨の差が一つの勝因を分擔するものであらう。又今後南方圏に於て活躍するに當つてもこの氣候的順應性が充分物を言ふことと思ふ。西洋人の結論をそのまゝ鵜呑みにすることはよくよく警戒しなくてはならぬ。

一、無刺戟的氣候

日本の氣候圖は發表出来ないので外國のそれを拜借しよう。所謂熱帯性氣候とは高温無變化の地を言ふ。第一圖はブラジル、アマゾン流域のマナオスの氣候圖でボカした所は白人の最適氣候と稱する範圍である。反對の寒帯性氣候は刺戟

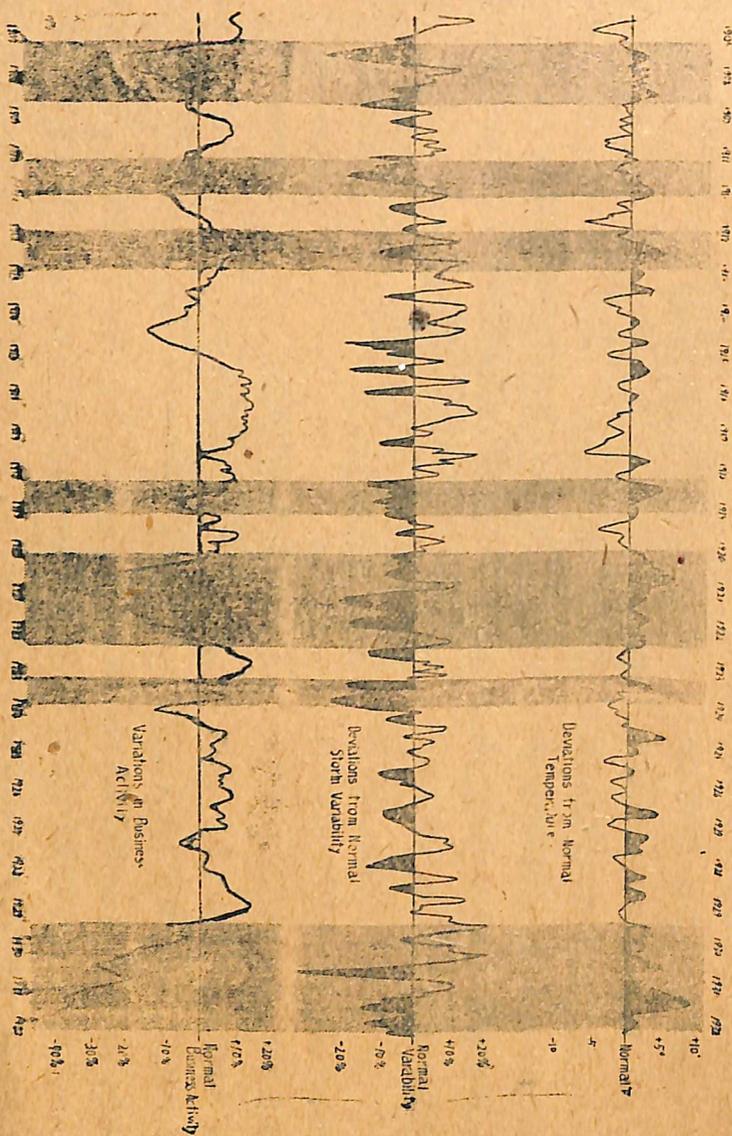
的氣候である(第二圖)。無刺戟的氣候では熱性傳染病、原虫性疾患、レブラ、脚氣、皮膚病が多く一般に精神能率の低下を來すと言はれてゐる。反之刺戟的氣候では肺結核、氣管支炎、肺炎、バセドウ氏病、糖尿病、高血壓症、動脈硬化等の疾患が多く、氣分はあせり氣味で緊張し過ぎて疲労し易く、自殺や他殺が多く、發育が旺盛で月經も早いと言はれてゐる。ミルスは氣候と景氣の間には密接な相關々係があり、高溫無刺戟な氣候に不景氣が附物であると言ふ。第三圖は一九〇七年から一九三二年迄の氣候と景氣の相關々係を示す曲線で上の曲線は氣溫の偏差、中は雨風の多少、下は景氣曲線である(ミルスによる)。

臺北等は亞熱帯ではあるが無刺戟的ではない。一日中の寒溫の差は内地よりも寧ろ激しく、風邪を引き易く結核が多い。海南島あたり迄は同様で海洋性の熱帯氣候は随分刺戟性の所もあると考へられる。前述アマゾン流域の如き地方は熱帯特に南洋方面では少ないであらう。だから吾々も心して臺灣の冬を充分味ふ様にしてゐる。成るべく寒いと言ふ感じを受ける様にしてゐるのである。

三、熱帯に於ける自覺症

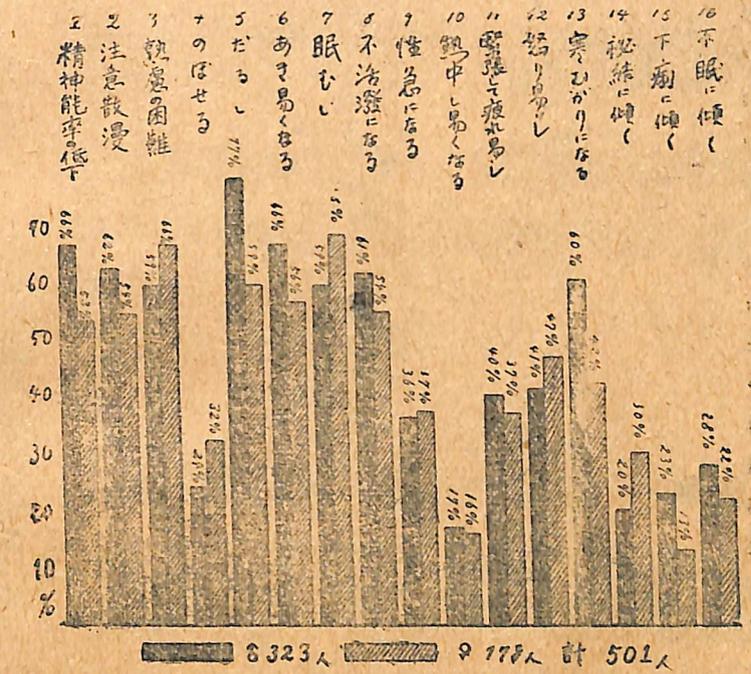
だるい、眠むい、不活潑等と言ふ訴へが熱帯に於ける主な訴へで、これが精神能率に重大な影

第3圖 氣候と景氣との關係



南方醫學研究會 森・中調査

第4圖 熱帯移住者の自覺徴候



響を及ぼすものである。臺灣に於ける知能階級約五百名の調査によると第四圖の如く、大部分の人がだるい、眠むいを訴へる。一體かゝる感じは何處から来るものであらうか。そのことを理解するには植物神経のことを話さねばならないので少しそれに觸れて見よう。

植物神経と言ふのは交感神経と副交感神経よりなり、脳脊髄神経とは全く別箇に獨立的に働いてゐる神経群で人體の無意識的機能に重大なる役目を演ずるものである。考へたり、仕事をしたり、歩いたりするのは脳脊髄神経の作用だが目が遠近や光に調節したり、御馳走を見て唾液

が出たり、胃が働き出したり、發汗、心臟の鼓動の調節、血液循環の調節等總て植物神経の働きである。さうして交感、副交感神経はお互に正反對の作用を有するもので、例之血管の收縮は交感神経の作用であるがその擴張は副交感神経の作用である。不眠、四肢の厥冷、指尖の震へ、食思の缺乏、便秘、心悸亢進等は交感神経の緊張で、氣分もいらいらして怒りつぽく落着きなく速度が早い、しかし精神力は旺盛になると言はれてゐる。反之副交感神経緊張の場合は眠むく、だるく、手足は温かく、食慾、性慾は盛んとなり、下痢に傾き、心臟の鼓動は遅くなり氣分もどちらかと言ふとゆつたりとする、さうして精神能率は低下すると言はれる。人は晝の間は交感神経緊張の状態にあり、夜は副交感神経緊張に傾く。色々事情を綜合すると、寒帯では交感神経緊張に、熱帯では副交感神経緊張に傾き易い。

四、熱帯神経衰弱

所謂熱帯神経衰弱と言ふのはこの副交感神経緊張による身體の違和感に、不眠、食思の缺乏、便秘等の交感神経緊張因子が混入することである。それは特に北方人が南方に移住することによつて精神能率の低下感、不眠、疲れ、度忘れ等を訴へるもので、今日迄の研究では氣候の外に環境的因子が多分に加はつてゐるものと考へられてゐる。西洋人の熱帯移住者の疾病中二八・六%は

精神神経の疾患で、その七〇％は熱帯神経衰弱であると言ふ。南方に於ける強制労働の場合ばかりの神経衰弱が簇出する。

西洋の文献を見てもカファール、サリテ、スーダニテ、トローパー、トローパーノイラスター等呼ばれ酒精中毒者や變質者は氣温、疲勞或は過度の不攝生により先づ第一番に本病に犯されると言ふ。グアム島には米國兵隊のグロミチスと言ふ病氣がある。總て之等の疾患に共通な點は環境的の反應因子が大きく現はれてゐることである。第五圖は海南島に於ける神経衰弱者の夢の分類であるが、歸りたいと口で言ふ者は二三％だが、故郷の夢を見たり、家族と遊んでゐる夢を見たりするものは五三％の多きに達してゐる。

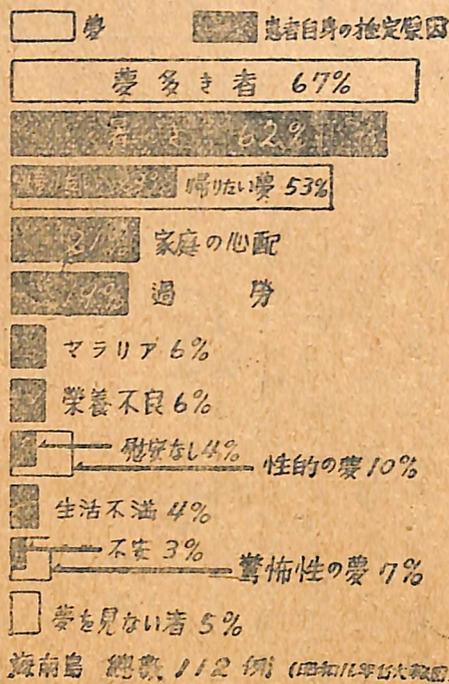
要するに前述の不眠、食思缺乏、秘結等はその原因が精神的の不满にあり、それに副交感緊張

性の身體的違和感が加はつて、熱帯に於ける特殊の神経症を形成すると言ふことが出来る。

果して然らばその豫防對策には二つの點を考慮に入れなければならない。即ち氣候的因子に對する對策と精神的因子に對する對策である。

氣候的因子に對しては居住場所の選定、家屋建築の改良、都市の緑化、職場の改良等が考へられる。京都帝大戸田教授門下の頭を冷やす方法は之を實用化すれば面白いと思ふ。熱帯の濕氣の精神的機能に對する影響は未だ研究されてゐないが大なる考慮が必要である。熱帯に於ける所謂刺戟的氣候地帯は總て濕潤な地方で比較的乾燥地であつて而かも毎日の氣温及季節的氣候の變化

第5圖 海南島熱帯神經衰弱者の夢



の多い地方を選んで都市を經營すべきである。氣候は案外少部分的に違ふもので山や川のある所では一軒違つてもところりと涼しくなるものである。

しかしそれよりも大切なことは精神的因子である。歸りたいのは何故かの問題である。第一表は臺灣に移住した知識階級者の訴へる高級精神作業の障礙で第二表は不快に感ずる内容の統計である。果してかゝる重

大な精神作業の障礙が事實存するものであらうか。此の調査の中には約二〇％の不平不滿家の混在を考へねばならぬ。かゝる人は寒帯に行かうが熱帯に行かうが何處でも神経衰弱になる人達である。氣候のみによるものでないことは第二表の不快の内容が之をよく物語つてゐると思ふ。かかる高級精神作業に多少の影響ありとするもそれは精神の緊張によつて克服出来ない程のもではないであらう。最近海南島及パンコックでも同様の調査を行つたが臺灣よりは寧ろよい成績で

第一表 高級精神作業の障礙

	男	子	女	子
推理力鈍る	14		2	
理想主義より遠ざかる	13		1	
讀書研究能率低下	13		0	
感受性鈍る	11		1	
文化なし	7		0	
成行に任かす様になる	6		1	
諷刺性なし	6		0	
潤ひなし(慰安なし)	5		1	
享樂的になる	3		1	
精神の低級化	3		1	
反省が鈍る	2		0	
纏らない	1		0	
理論が飛躍する	1		0	
計	85 (4.9%)		8 (4.4%)	

氣候的條件とは全く矛盾しそうなこと、なつた。即ちかゝる不平不満の原因は純精神的である場合が非常に多い。要するに心の持ち方即ち心に満足感を覚えることが熱帯神經衰弱豫防の大きな目標である。各個人の満足感を起さしめるには二つの行き方がある。一つは西洋人的外向的方法で俸給を高くし、原住民を壓迫し、豪壯な建築をなし、美食美酒を用意する方法、他は日本的内向的に心の持ち方を變へ精神修養によつて満足を得る方法である。今後の南方經營特に戦時下の物資不足の際に於ける處置としては正に後者でなくてはならぬ。國家に御奉公すると言ふ根本觀念が確立して居れば如何なる邊境の地にも不満の起る譯はない。南方に於ける勞働者のマラリア豫防法の一つとしてマラリアに罹るものは本人の不注意だから休業中は給與を半分にすると云ふ規定を作つたらマラリア患者が急激に減少したと言ふ(宮原氏談)、一種の精神療法であり、精神の緊張によつてマラリア再發を豫防し得た實例である。しかし懲罰による緊張感はまだ初歩で、各人が

の持ち方を變へ精神修養によつて満足を得る方法である。今後の南方經營特に戦時下の物資不足の際に於ける處置としては正に後者でなくてはならぬ。國家に御奉公すると言ふ根本觀念が確立して居れば如何なる邊境の地にも不満の起る譯はない。南方に於ける勞働者のマラリア豫防法の一つとしてマラリアに罹るものは本人の不注意だから休業中は給與を半分にすると云ふ規定を作つたらマラリア患者が急激に減少したと言ふ(宮原氏談)、一種の精神療法であり、精神の緊張によつてマラリア再發を豫防し得た實例である。しかし懲罰による緊張感はまだ初歩で、各人が

第二表 不快の原因

不快の内容	數
設備不完	7
文化なし	7
臺灣本島人に對して	5
社會の不满	4
形式主義	4
不作法	2
植民地氣分	2
自然環境	2
人事につき	1
非日本性	1
表裏多し	1
俸給少し	1
性的に刺戟多し	1
實利主義	1

實際に國家奉公の念に燃ゆる様に指導して行かねばならぬ。

五、熱帯に於ける精神病

南方に於けるラターとアモックは有名である。ラターはアイヌのイムと略々同様の疾患で、患者を叱驚させたり、クスグツたりすると突然意識を變化して人の眞似、猥褻な言動等をし出す病氣で、マレー婦人に特に多い。同様な疾患がビルマ(ヤウン)、泰國(バアチ)、ヒリツピン(マリマリ)にもあり、シベリヤあたりにもあると言ふので熱帯特有とは言ひ難いが、南方地方住民の生活、精神状態、風俗、習慣に關係ある疾患として、その研究は民族精神の闡明に重要である。

アモックはマレー地方に特有とされる多數殺人をやる急性精神病で二百年も前はその慘害が甚しかつたらしい、一度に十人二十人の殺人は珍しくなかつたと言ふ。一種の癲癇症と考へる人、熱性傳染病中の症候性精神病と考へる人、特殊の一過性精神病と考へる人もあるが、その重大な所は何故南方に於てのみ精神異常の徴候が一定の慘虐な形を取るかと言ふことである。武器の常

用、宗教、迷信等が手傳つてゐることも考へられる。南洋群島にあるセツトノート、マネンヘン、ハルムタノ（冷たい森の病）と言ふ病氣は、一種の精神癲癩の様でもあるが、尙ほ一定の迷信的色彩を有し、アチエ族の殺人は白人を殺して自分が救済されると言ふ宗教的行爲らしい。中國人も印度人もアモック走りをやるので人種に關係はないと言はれてゐる。

熱帯地方では肝臟が犯され自家中毒に陥り易い、それで酒等飲んでゐると忽ち急性精神病になるらしい。それが武器を振り廻す様な形で現はれることは日本人にも西洋人にもある様である。酒を飲んで日本刀を振り廻して暴れ廻つたと言ふ話はよく聞く所で、それとこれと如何なる關係にあるか尙不明である。

熱帯地方ではどうも人間がヒステリア的になる、分島氏の研究によつても之れが實證されてゐる。特にその地の住民はヒステリア的で、移住民もその傾向を有する様になる。此の事實の眞の原因究明は南方移民に對し重大なる意義を有するに至るであらう。

昭和十九年七月十日 印刷
昭和十九年七月十五日 發行

頒價 金 二 十 錢
特別行爲稅相當額 一 錢
合計 金 二 十 一 錢

財團法人 南洋經濟研究所

編纂兼 發行人 代表者 小 西 千 比 古

印刷者 鮎 澤 二 郎

長野縣岡谷市橋原

印刷所 合名 鮎 澤 印刷 所

東京都赤坂區表町四丁目一番地

發行所 財團 法人 南洋經濟研究所出版部

振替貯金口座東京一四五八三二番